

マケドニア共和国から研修医

健育会と連携協定



左から調印式での竹川・ツヴェトコビッチ・牧野の3氏

リハビリ分野で実践研修 竹川病院で4週間の指導

医療法人社団健育会（竹川節男理事長、東京都千代田区）とマケドニア共和国保健省は9月30日、医療従事者の研修協力に関する連携協定を締結。今月11日から4週間、同国の医師を対象としたリハビリテーションの専門研修を開始した。受け入れ先となる竹川病院での調印式に出席したアンドリヤナ・ツヴェトコビッチ・マケドニア共和国特命全権大使は「日本と医療分野における協力ができることを非常に嬉しく思っている」と述べた。また、竹川理事長は「海外からの医師の受け入れは初めてとなるが、私たちも勉強しながら有意義な研修にしていきたい」と抱負を語った。研修を受けるエレナ・プレゾウスカ医師は、理学療法、リハビリテーションを専門としており、指導には竹川病院院長補佐の酒向正春・回復期リハビリテーションセンター長が当たる。主な研修内容は、脳卒中や脊髄損傷等の患者の病態管理から、必要な理学療法、作業療法、言語療法の処

方、長下肢義肢歩行訓練や電気刺激上肢訓練に至るまでの実践的なプログラムとなっている。調印式で竹川理事長は日本のリハビリテーションおよび慢性期医療は世界トップレベルだと説明、指導に当たる酒向医師について「ベッドサイドリハビリテーションの第一人者」と紹介し、「リハビリに関する多岐にわたる指導を期待している」と述べた。

マケドニア共和国との連携協定に至る経緯については、2015年1月に、自由民主党の牧野たかお参議院議員より外務省を通じ、同国の医師研修受け入れの相談が健育会側に持ち掛けられたことがきっかけとなった。同年2月にツヴェトコビッチ大使が竹川病院を見学した際、リハビリテーション研修を希望したいとの申し出があり、16年2月に同国保健省を通じ

医師からリハビリ研修への応募があった。

研修医師はエレナ・プレゾウスカ氏（47歳、女性）。1999年St. Cyril and Methodius 大学医学部を修了し医学博士号を取得。2007年同大学にて理学療法とリハビリテーションのスペシャリストの資格を取得。08年よりPHI Gerontology Institute "13th November Skopje"にて高齢者の長期ケア、末期がん患者の緩和ケア等に従事、現在に至る。

看護師候補者を、15年からは日本語学校と連携し中国人看護師を10名受入れている。

◎研修プログラム

- ①脳卒中、整形疾患、廃用症候群、脊髄損傷等の担当患者の病態管理
- ②高齢者の全身管理
- ③意識、運動、高次脳機能、精神機能の改善に必要な理学療法、作業療法、言語療法の対処
- ④長下肢義肢歩行訓練
- ⑤段階的嚥下訓練
- ⑥電気刺激上肢訓練

◎竹川病院

板橋区桜川2-19-1、田中眞院長▽診療科目▽リハビリテーション科、内科、皮膚科▽病床数▽161床（回復期リハビリテーション病棟106床、療養病棟55床）